

## Contents

- 1) 学会からのお知らせ
- 2) 健康心理学コラム vol. 63 山田クリス孝介 (慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科)

### 1) 学会からのお知らせ (<http://jahp.wdc-jp.com/>)

■日本健康心理学会第31回大会/日本ヒューマン・ケア心理学会  
 学術集会第20回大会情報 (2018年6月23・24日, 京都橘大学)

(1) ラピッドコミュニケーションポスター発表の受け付けがはじ  
 まります

4月の中旬からラピッドコミュニケーションポスター発表を受け付  
 けます。事前に発送するプログラム集へはお名前等を掲載できませ  
 ませんが、WEB上でのプログラムや大会発表論文集 (WEB公開) に  
 は発表原稿も含めて掲載されます。ご準備いただき奮ってご応募く  
 ださい。お申込は、<https://iap-jp.org/jahp/html/index.html> よりお  
 こなってください。

- ・大会参加事前申込受付: 2018年4月13日 (金) まで
- ・一般研究発表 (ラピッドコミュニケーションポスター発表) 申込  
 受付: 2018年4月中旬から5月23日 (水) まで

#### (2) 講演・シンポジウム・ワークショップ等

今回は合同大会のため、双方の学会から多数の充実した委員会企画  
 やワークショップ形式の企画、研修会等が予定されています。また、  
 大会準備委員会でも、本大会のテーマ「こころとからだの健康とケ  
 ア」に沿った講演やシンポジウムを企画し、古くて新しい課題「心  
 と脳」について、心理学内外の研究者にご登壇いただき、心と身  
 体の接点に迫る試みを展開します。

精神医学、神経画像学、高次脳機能障害の臨床を専門とされる村井  
 俊哉先生 (京都大学大学院医学研究科) のご講演、人工知能・言語  
 を専門分野とされている月本洋先生 (東京電機大学工学部) や人文  
 学に着想を得た問題を科学的に検討されている森口佑介先生 (京  
 都大学教育学部) にご登壇いただくシンポジウムを企画しています。  
 詳細は、合同大会ホームページ (<http://jahp.wdc-jp.com/conf/31st/>)  
 をご覧ください。その他の内容につきましても、最新情報を合同大  
 会ホームページで順次お知らせします。皆様のご参加およびご発表  
 を心よりお待ちしております。

#### (3) 託児サービスを提供します

今回の合同大会では、ベテランの保育士による託児サービスを提供  
 します (各日お子様1人につき2,000円)。お部屋の都合にて、各  
 日お子様15名まででお申し込みを締め切らせていただきますが、  
 まだ余裕がございます。先着順ですので、ご入用の方は早目に大会  
 準備委員会 ([jahp-jpahc-committee@tachibana-u.ac.jp](mailto:jahp-jpahc-committee@tachibana-u.ac.jp)) までお申  
 し込みください。

#### (4) 周辺環境など (その2)

今回は、京都ならではのおもてなしをさせていただきたいという思  
 いで、休憩室や懇親会の準備も進めております。懇親会では、大蔵  
 流狂言師・茂山宗彦氏による狂言「柿山伏」(予定) の上演もござい  
 ます。茂山宗彦氏は、NHK連続テレビ小説「ふたりっ子」の羽柴  
 秀明役や「ちりとてちん」の徒然亭小草若役等、俳優としても知ら  
 れる人気狂言師です。先日、上演していただく会場の下見に本学へ

お越しくださいましたが、とても気さくな方で、今回限定の特別な  
 演出も考えてくださっているとか。大会準備委員会としても大変期  
 待しております。ぜひ、懇親会でご一緒にお楽しみください。

■2018年度 アーリーキャリアヘルスサイコロジスト賞について  
 2018年度も日本健康心理学会に所属する若手研究者および Early  
 Career 研究者による国際学会大会での優れた発表を表彰すること  
 になりました。応募期間は2月1日から3月31日までです。詳細  
 につきましてはこちら ([http://jahp.wdc-jp.com/pdf/2018\\_helth.pdf](http://jahp.wdc-jp.com/pdf/2018_helth.pdf))  
 をご参照ください。

#### ■日本健康心理学会認定健康心理士資格に関する重要なお知らせ

(日本健康心理学会資格認定委員会・委員長 森 和代)  
 日本健康心理学会では、社会状況やニーズの変化に適応すべく、資  
 格制度を見直し、2017年度から変更を行いました。周知が不十分  
 と思われるため、周知文書をHP (<http://jahp.wdc-jp.com/shinsei.html>) に掲載致しましたので、必ずご確認くださ  
 いますようお願い申し上げます。

### 2) 健康心理学コラム Vol. 62

「地域での実践的研究に向けて」

山田クリス孝介 (慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科)

私はこれまで、生理指標を用いたストレス研究に従事してきました。  
 学生からポスドクの頃は、研究協力者を募集して実験室まで来てい  
 ただき、暗算や鏡映描写などのストレス課題を実施していただいたり、  
 感情喚起スライドを観ていただいたりして、その時の生理反応  
 (心拍数や血圧などの自律神経系、唾液中コルチゾール、脳血流量)  
 を測定していました (例えば、Izawa et al., 2008)。

実験室での実験はとても面白く、ノウハウを含めていろいろなこと  
 を学ぶことができました。その一方で、実験室実験では扱えない問  
 題があることも知りました。それは、実験室は特殊な環境下であり、  
 実験室で得られた知見が必ずしも日常生活の生理活動を反映した  
 ものではないかも知れないということです。所謂、生態学的妥当性  
 と呼ばれる問題です。実験室実験は事象のメカニズムを解明する上  
 で非常に強力な方法です。

しかし、実験室は非日常的な体験を研究協力者にもたらします。そ  
 れが果たして人々の日常的な活動を反映しているのかと言われれば、  
 すべてが当てはまる訳ではありません。そこから、私の関心は  
 人々の日常に向き始め、バイオマーカーを用いた人々の日常の中  
 のストレスと健康との関わりについての研究を始めました。

人々の日常に迫るためには地域での実践的な研究が必要だと感じ  
 ていたとき、ちょうど長崎県の五島列島をフィールドに行う観察研  
 究 (Yamada et al., 2015) に携わる機会を得ました。この研究に参  
 加して、地域の方々のご協力を得ながら地域の方々と共に行ってい  
 くという地域での実践的研究の魅力を体験することができました。  
 今後は、地域の健康増進に貢献できるような実践的研究を行いたい  
 と考えているところです。

文献

Izawa, S., Sugaya, N., Shirotaki, K., Yamada, K. C., Ogawa, N., Ouchi, Y., Nagano, Y., Suzuki, K., Nomura, S. (2008). Salivary dehydroepiandrosterone secretion in response to acute psychosocial stress and its correlations with biological and psychological changes. *Biological Psychology*, 79(3), 294-298.

Yamada, K. C., Sone, Y., Crews, D. E., Kusano, Y., Aoyagi, K., Maeda, T., Iwamoto, A. (2015). Association between allostatic load and activities of daily living in older Japanese. The 12th International Congress of Physiological Anthropology, October 27-30, 2015.

-----

日本健康心理学会広報委員会

<http://jahp-public.blogspot.jp/>

メールマガジンの配信停止、アドレス変更は下記アドレスまで

日本健康心理学会事務局 <[jahp-post@bunken.co.jp](mailto:jahp-post@bunken.co.jp)>

メールマガジンへのご意見・ご感想は下記アドレスまで

広報委員会 <[jahp-ML@bunken.co.jp](mailto:jahp-ML@bunken.co.jp)>

過去のメールマガジンは、こちらからご覧いただけます

<http://jahp.wdc-jp.com/health/health1.html>